

経営比較分析表

千葉県 八匠水道企業団

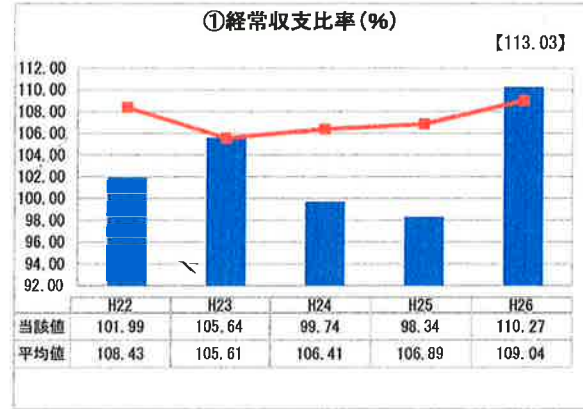
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A5
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	95.94	83.90	4,449

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
41,112	118.42	347.17

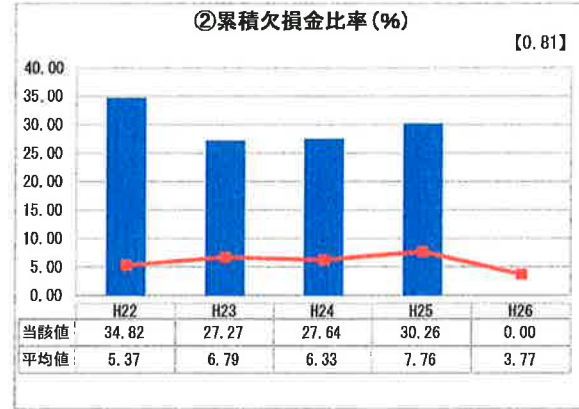
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

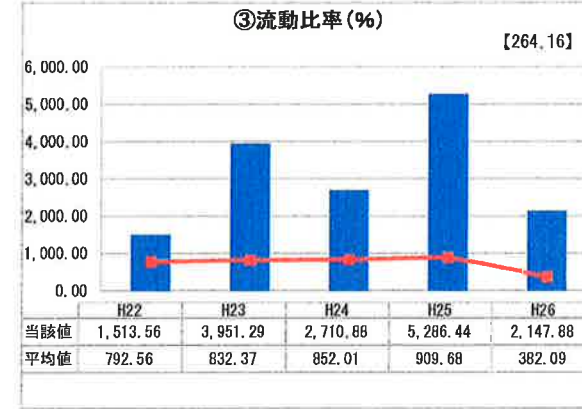
1. 経営の健全性・効率性



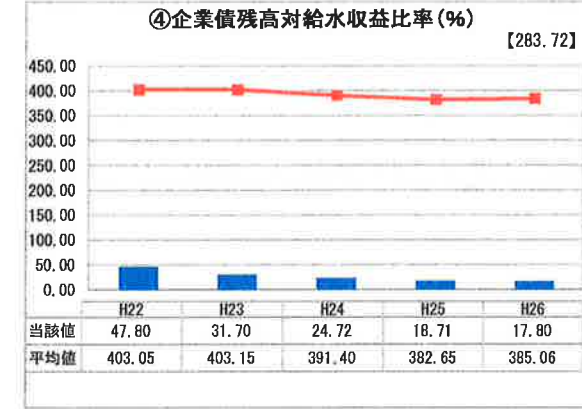
「経常損益」



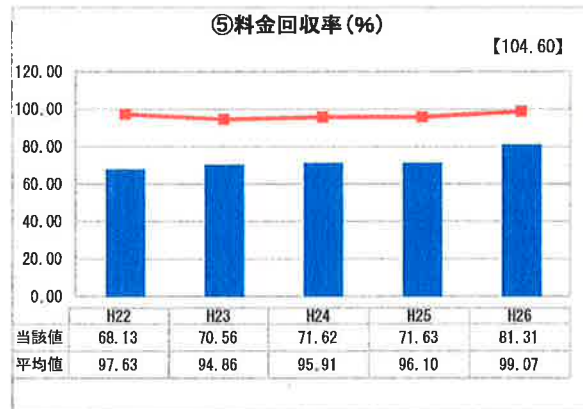
「累積欠損」



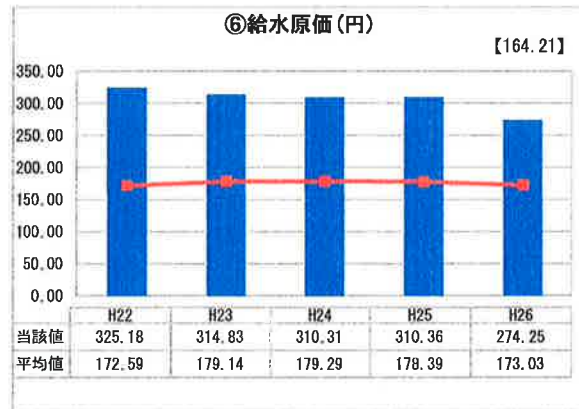
「支払能力」



「債務残高」



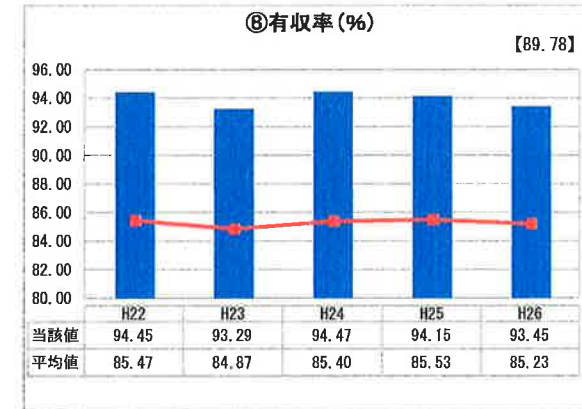
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

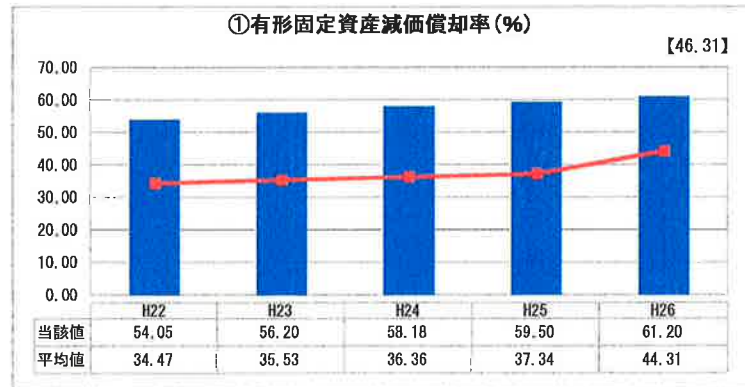


「施設の効率性」

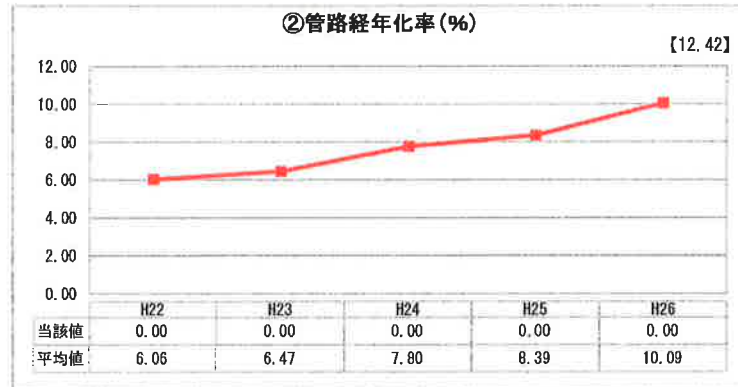


「供給した配水量の効率性」

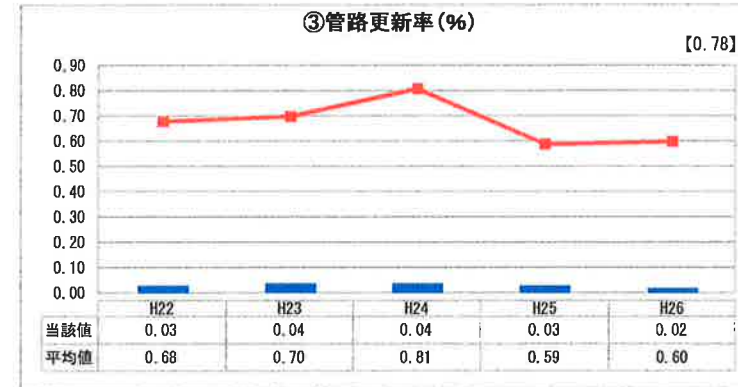
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

・ 経常収支比率は100%を超えているが、収入の多くを補助金等により賄っているため、給水収益の増加に向けた取り組みが必要である。
 ・ 有収率は高水準にあるが、人口減少が進んでいることから施設利用率が右肩下がり傾向であるので、施設更新時のダウンサイジングなどを検討していく必要がある。

2. 老朽化の状況について

・ 現在管路については経年率は0%であるが、管路の更新率は低水準であるが、あと数年で経年率が大幅に増加するので計画的に順次更新をしていく必要がある。

全体総括

・ 小規模事業者であり住宅密集地が少ない為、事業効率が良くない上、過疎化による人口減少が進み給水収益の増加も見込めない状況下である。より一層の費用の削減をしていくものであるが、固定経費が大部分を占めているので厳しい状況である。また、今後発生する耐震化及び更新工事に膨大な費用が必要になってくる為、今後は起債を行いながら実情にあった水道施設のダウンサイジングと、重要度・優先度に応じた更新を行っていく予定である。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。